

りんご栽培で使用する殺ダニ剤の効果の実態

【概要】

りんご栽培への被害が問題となっているハダニ類は、年間の世代数が多く、薬剤抵抗性が発達しやすい害虫です。近年、本県ではナミハダニに対して一部の殺ダニ剤の効果低下が認められるようになってきました。そこで、防除体系の見直しにつなげるため、各種殺ダニ剤の効果进行调查しました。

・ 成虫にも卵にも高い効果を示した剤

⇒コロマイト乳剤、オマイト水和剤、カネマイトフロアブル、ダニオーテフロアブル

・ 卵に対して高い効果を示した剤

⇒ダニゲッターフロアブル（もともと成虫に対しては効果が低い剤）

・ 感受性低下が認められた剤

⇒ダニサラバフロアブル、ダニコングフロアブルは成虫・卵の両方で効果が低下
スターマイトフロアブルは成虫に対して効果が低下

表1 各種殺ダニ剤のナミハダニに対する効果

商品名	IRAC コード	希釈倍数	ナミハダニへの効果	
			卵 	成虫 
ダニゲッターフロアブル	23	2,000	◎	×
ダニサラバフロアブル	25A	1,000	×	×
スターマイトフロアブル	25A	2,000	○	×
ダニコングフロアブル	25B	2,000	×	×
コロマイト乳剤	6	1,000	◎	◎
オマイト水和剤	12C	750	◎	◎
カネマイトフロアブル	20B	1,000	◎	◎
マイトコーネフロアブル	20D	1,000	○	◎
ダニオーテフロアブル	33	2,000	◎	◎

ナミハダニへの効果は以下のように補正死虫・死卵率により評価した。

◎過半数の地域で95%以上 ○過半数の地域で85%以上 ×過半数の地域で70%未満

【試験データ等】

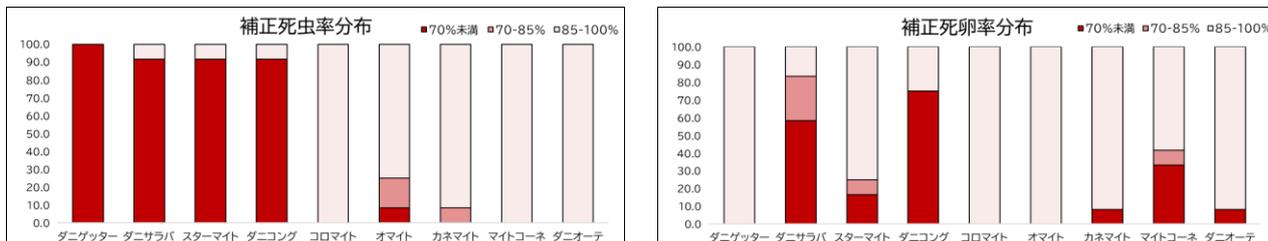


図1 各種殺ダニ剤のナミハダニ成虫および卵に対する効果（県内12地点）

【令和7年度成果】県内主要りんご産地におけるナミハダニの薬剤感受性実態(R7-指-15)